

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

令和元年(2019) 9月

Vol.
77

CONTENTS

- ①～② 平成30年度
研究成果報告会
- ②～③ 地域支援活動
- ③ 情報ひろば
- ④ ネット社会において
青少年を守り育てるためには
- ⑤ HAT神戸掲示板
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター
MiRAi

管理部

研究戦略センター

人と防災未来センター

こころのケアセンター

平成30年度研究成果報告会 地域コミュニティの防災力の向上シンポジウム －みんなが＜助かる社会＞の構築をめざして－

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究戦略センター研究調査部

人口減少、超高齢化による担い手の不足や、コミュニティの希薄化が進むなか、どのようにして地域コミュニティの防災力を向上させるかは喫緊の課題です。研究戦略センターでは、平成29年度から30年度にかけて研究調査部において実施した「地域コミュニティの防災力向上に関する研究～インクルーシブな地域防災へ～」の研究成果報告会を姫路市内で開催しました。

会場に集まった約200名の参加者を前に、地域の個性や地域住民、行き交う人々の多様性に配慮した地域防災、誰もが「助かる社会」の実現に向けて、活発な議論が交わされました。

- (日時) 令和元年6月3日(月)13:30～16:30
- (場所) ホテルモントレ姫路 3階ラフェスタ
- (参加者) 197名(行政職員(県・市町)、大学、企業、シンクタンク、地域団体、一般県民等)
- (参加費) 無料
- (主催) 公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構
- (後援) 兵庫県(西播磨県民局、中播磨県民センター、東播磨県民局、北播磨県民局)、関西広域連合、上郡町

(内容)

●基調講演

「地域コミュニティの防災力の向上 －みんなが＜助かる社会＞の構築をめざして」

講演者: 渥美公秀 大阪大学大学院人間科学研究科教授
当機構研究戦略センター
政策コーディネーター(H29～30年度)

シンポジウムでは、最初に「地域コミュニティの防災力の向上－みんなが＜助かる社会＞の構築をめざして」をテーマとして、「地域コミュニティの防災力向上に関する研究～インクルーシブな地域防災へ～」研究会代表者である渥美公秀 大阪大学大学院人間科学研究科教授から講演いただきました。まず、研究会の背景として、阪神・淡路大震災から25年を迎えようとする今、防災の取り組みはかなり進んできてはいるものの、超高齢社会、人間関係の希薄化等でコミュニティの力が低下しています。研究会ではこうした背景を踏まえ、多様な人々一人ひとりに配慮したインクルーシブな地域防災のあり方について、高齢化の進む兵庫県上郡町赤松地区をモデル地区として検討を重ねてきた内容について報告がありました。そのなかで地域防災力を向上させるためには、防災に特化せず、



地域おこしや福祉等の取り組みと連動させていくことが重要であり、当事者である地域住民はもとより、行政や専門家等のアドバイザーチームを交えて地域コミュニティの魅力と課題について対話を重ね、取り組みを進めていくことが必要との指摘がありました。

●基調報告

「赤松地区連合自主防災組織の取り組み」

報告者: 古正好晴 兵庫県上郡町赤松地区連合自治会長



次に、兵庫県上郡町赤松地区での自主防災の取り組みについて、古正好晴 赤松地区連合自治会長から報告いただきました。播磨国守護の赤松円心、また明治政府の礎を築いたとされる大鳥圭介男爵の縁の地である上郡町赤松地区では、豊富な歴史資産を活用したイベントの開催に熱心に取り組むとともに、地域の自主防災についても活性化を図ってきました。そうした中で「地域コミュニティの防災力向上」研究会からの提案を受け、超高齢化社会における自主防災のモデルとして、地域活動の機会

を活用した地域外との連携強化や防災意識の向上への取り組みが進められています。

具体的には、毎年11月に開催される「白旗城まつり」を防災と絡めた実践的な活動の場とすることを目指して、集落調査や村づくり会議を実施し、交通弱者でもある高齢者や障がい者の参加方法(=避難方法)をはじめ、参加者への昼食の提供(=炊き出し訓練)、仮設トイレの設置等について、ひとつひとつ検討を重ねていった経緯について、古正会長から説明がありました。こうしたむらづくりに防災の意識を取り入れて地域の防災計画を考える取り組みを経て、「赤松地区防災計画」が策定されるに至りました。古正会長はこの防災計画について、「今後2年ごとに見直していき、その都度見えてくる課題と向き合いながら常に進化形でいくという姿勢で取り組んでいきたい。」と述べました。

●パネルディスカッション

「まちづくりに包含される<助かる社会>とは」

コーディネーター：矢守克也(京都大学防災研究所教授
人と防災未来センター上級研究員)

パネリスト：宮本匠
(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科講師)
小林郁雄
(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科
特任教授・人と防災未来センター上級研究員)
村井雅清(被災地NGO協働センター顧問)
山田壽範(兵庫県上郡町役場住民課副課長)

コメンテーター：室崎益輝
(兵庫県立大学大学院 減災復興政策科長・教授)

続くパネルディスカッションでは、「助かる」「インクルーシブ(包摂)」「まちづくり」をキーワードに、有識者の皆さんが議論を展開しました。「日常的なまちづくり活動や祭りなどの地域行事は、防災を前面に出して実施されてはいないが、そこに集まり、関わることで人々のつながりが生まれ、結果として防災・減災の面で大きな力を発揮する。」「地域で積極的にまちづくりに取り組んでも、過疎化・高齢化は止まらず、地域のつながりが弱まっていく状態にある。こうした中、地域を開いて、外から来る人(来訪者・研究者等)を受け入れて一緒に動くことが、これからの防災やまちづくりには重要になってくる。」「色々な人を包摂する(インクルーシブである)ことは社会としては当たり前のこと。しかし、災害発生時にはまさに一番弱い立場の人たちが犠牲になっていくという現実がある。」「防災の取り組みにうまく乗ることが出来る人・出来ない人を隔てる壁を、少しずつ崩していく取り組みがインクルーシブな防災への一歩になる。」等の意見が交わされました。



情報ひろば

◎ こころのケアセンター

阪神・淡路大震災25年
兵庫県こころのケアセンター開設15周年記念
こころのケア国際シンポジウム参加者募集
「災害とレジリエンス」をテーマに、講演とパネルディスカッションを行います。

- 日時=令和元年11月7日(木)13時00分~18時00分
- 場所=神戸ポートピアホテル本館地下1階「和楽」
- プログラム
 - ①「兵庫県こころのケアセンター15年の活動」
加藤寛(兵庫県こころのケアセンター長)
 - ②基調講演1「東日本大震災後の子どものこころのケア
~8年間の診療と研究から見えること~」
八木淳子(岩手医科大学神経精神科学講座 講師、
いわてこどもケアセンター 副センター長)
 - ③基調講演2「アメリカの災害後の心理社会支援：
教訓、最近の動向、および災害救援者への支援」
パトリシア・ワトソン
(アメリカ国立PTSDセンター 教育専門官)

Information

④パネルディスカッション

- パネラー報告1「インドネシアでの被災者の心のケアについて」
エニ・ヌライニ・アグスティニ
(インドネシアジャカルタ シャリーフ・ヒダヤトゥッ
ラー州立イスラム大学 精神保健看護学部 講師)
- パネラー報告2「原発事故がもたらしたトラウマと心理社会的影響：福島現場から」
前田正治
(福島県立医科大学災害こころの医学講座 教授)

⑤パネルディスカッション(後半)

- パネリスト：八木淳子、パトリシア・ワトソン、エニ・ヌライニ・アグスティニ、前田正治

- 定員=200名
- 参加費=無料
- 申し込み=ホームページ

https://www.ists2019.jpからお申し込みください。
定員になり次第、締め切ります。インターネットをご利用できない方は、下記の運営事務局までお問い合わせください。

- 運営事務局・お問い合わせ
株式会社JTБ 西日本MICE事業部 営業4課
〒541-0058 大阪市中央区南久宝寺町3-1-8 MPR本町ビル9階
TEL 06-6252-5085 FAX 06-6252-4015
Eメール ists2019@jtb.com

地域支援活動 —センターの機能—

兵庫県こころのケアセンターは国内の災害、事件や事故等の発生により「こころのケア」が必要と判断された場合には調整窓口となり、関係機関と連携して支援体制を整備するとともに、「兵庫県こころのケアチーム(ひょうごDPAT)」の現地派遣を行うなど、地域支援活動を行っています。

具体的な活動として、東日本大震災や熊本地震への継続的な支援に加え、平成30年度に起こった大阪府北部地震及び西日本豪雨災害において、被災地域への精神的な支援を実施しました。

また、現場で活動する支援者をサポートするために、消防関係職員や教育保健福祉医療関係者等へのメンタルヘルスに関する相談や研修会等を実施しています。

平成31(2019)年2月に兵庫県国民保護共同訓練(ラグビーワールドカップ2019の開催に備えたテロの実働訓練)に参加し、消防、警察や自衛隊等と連携を図り、小学校の救護所での診察や啓発活動を行う訓練を実施しました。



兵庫県国民保護共同訓練の様子

ひょうごDPATとは

DPAT(Disaster Psychiatric Assistance Team)とは、大規模災害の被災者や支援者に対し、DMAT等の医療救護班や保健活動班等と連携し、精神科医療の提供や被災地域の巡回等による精神保健活動を支援するチームのことで、

ひょうごDPATは平成26年12月19日に発足し、こころのケアセンターは「ひょうごDPAT」の統括、人材育成やスキルアップを目的とした研修を担っています。

国外においては、日本、各国の政府機関やJICA等からの要請を受け、現地のこころのケアモデルを構築するために、中核となる専門家等を対象にコンサルテーションや研修を実施し、人材育成について協力しています。

主な活動実績

- JR福知山線脱線事故(H17年)
 - 能登半島地震災害(H19年)
 - 新潟県中越地震災害(H19年)
 - 台風第9号災害(H21~24年)
 - 東日本大震災(H23年~)
 - 熊本地震(H28年~)
 - 大阪府北部地震及び西日本豪雨災害、台風第21号被害(H30年)
-
- スマトラ島沖地震における津波災害(H17年)
 - 中国四川大震災(H20~23年、H25~26年)
 - ニュージーランド地震(H23年)
 - チリ大地震(H27年~)

その他、トラウマ(こころの傷)やPTSD(心的外傷後ストレス障害)等に関する専門相談や治療を行っており、性被害、虐待やDVの相談件数が増加している中、カウンセリングによる心理的影響に関する専門的な治療を実施し、継続的な支援の中で改善効果がみられています。(平成30年度からナラティブ・エクスプロージャーセラピーを追加しました。)

今後も、これまでに積み上げた活動実績や経験を活かして、災害、事件や事故等の発生時の支援活動はもとより、PTSDの専門相談や治療の他、啓発や人材育成等の予防的な精神保健活動にも積極的に取り組みたいと考えています。

情報誌やwebサイト、ロゴ制作など、
広報戦略・ブランディングの
ご相談を承ります

IDÉE INC.

株式会社 イディー
〒650-0033
兵庫県神戸市中央区江戸町85-1
ベイ・ウイング神戸ビル10F
Tel. 078-331-5255 Fax 078-331-7800
E-mail info@idee-kobe.com イディー 神戸 検索

コミュニティ型ワーキングスペース
「ON PAPER」はじめました!



ON PAPER

<https://onpaper.jp>

ONPAPER 検索

ネット社会において青少年を 守り育てるためには

主任研究員
劉雯



研究の経緯と目的

情報技術革新やスマートフォン等の急速な普及により、利便性が高まった一方で、「ネット依存」「ネット炎上」「高額課金」等、青少年を取り巻くネット問題が深刻化している。当機構では、平成29年度から2年間「ネット社会において地域全体で青少年を守り育てる環境整備のあり方」を県要請研究テーマとして、青少年のネット利用状況を明らかにし、ネット依存・ゲーム依存の青少年を対象に、依存からの脱却を目指す体験型プログラムの開発に取り組んできた。本稿では、得られた研究成果と地域全体で取り組むべき環境整備のあり方についての政策提言を簡潔に紹介する。

兵庫県内の青少年のインターネットの利用状況

県内の小学校5年生から高校3年生までを対象にアンケート調査を実施したところ、携帯電話・スマホの所有率は学年が上がるほど割合が高くなっており、「ネット依存傾向あり」の割合とも比例していることが分かった。一方で、ネット利用の低年齢化が進み、小学生の「ネット依存傾向あり」が増えてきている。今後、小学生のスマホの所有率の上昇や、スマホ世代の親の台頭により、小学生のネット依存傾向が更に高まることが予想される。

また、保護者へのアンケート調査の結果によると、子どものネット利用の実態を保護者が必ずしも把握しておらず、保護者が想像している以上に多くの子どもが高額課金や「会ったことがない人とネットでやりとり」を経験しており、ネットトラブルに巻き込まれるケースが増えている。

なお、調査項目が同じである平成30(2018)年に公表された厚生労働省研究班(代表・尾崎米厚鳥取大教授)の全国調査と、兵庫県における本アンケート調査の調査結果を比べると、「依存傾向あり」の割合及び調査開始時からの伸び率ともに兵庫県の方が低かった。これについては、兵庫県における青少年による自主的なルールづくりの推奨や、フィルタリング設定の普及といったネット利用対策等の取り組みが一定の効果を現しているものと考えられる。

ネット依存の予防・克服を目指して

本研究では、平成28年度から文部科学省委託事業として、兵庫県及び兵庫県青少年本部が、兵庫県立いえしま自然体験センターで、キャンプを通して人の繋がりを体験し、ネット・ゲーム依存の予防・克服を目指して実施している「人とつながるオフラインキャンプ」の調査・分析も行った。オフラインキャンプは、自然活動体験を通じて、同年代の参加者やサポーターの大学生と協力し信頼関係を築いたことにより、ネットやゲームを利用しなくとも喜びや心地よさ、充実感を得ることにつながったといえる。オフラインキャンプでは、①1日1時間(フリータイム)ネット利用できる環境の整備、②ピアサポートの考え方に基づいた日常生活の振り返りや参加者同士の交

流、③携帯電話事業者、報道機関、医療機関等の関係機関と連携した取り組みの推進などが行われ、ネット・ゲーム依存への予防的かつ教育モデルのキャンプ療法の手法を確立しつつある。

地域全体で取り組むべき環境整備のあり方とは

本研究では、兵庫県内の青少年が安全かつ安心してネット利用できるよう、次の4つの政策提言を行った。

①青少年自身が主体的に考えるルールづくりの推進

効果的なルールをつくるためには、子どもたちが当事者意識を持ち、自ら考えることが必要である。このことから、学校や家庭において、子どもの意見を取り入れた実現可能なルールを策定するとともに、ネット環境や子どもの生活環境が常に変化し続けることを踏まえて、定期的にルールを見直すなど、継続的な取り組みが必要である。兵庫県は、こうした取り組みが家庭・地域・学校等で行われ、県全域に広がるよう支援していく必要がある。

②関係機関と連携したフィルタリングへの意識啓発の強化

フィルタリングの利用については、携帯電話・スマホを持ち始める前に、フィルタリングの必要性を認識できるよう、小学校低学年から意識啓発を進めていくことが必要である。加えて、携帯電話・スマホの所持が低年齢化していることから、幼稚園児や保育園児及びその保護者への働きかけも大切である。そのためには、行政、教育委員会、警察及び携帯電話事業者など関係機関が連携し、これまで以上に青少年及び保護者に対してフィルタリングの機能や必要性について意識啓発を強化していく必要がある。

③保護者の意識向上への働きかけ

今や、スマホは生活の一部となっており、それを上げたり、「一律禁止」とすることは有効な手段とはいえない。むしろ、日常的に利用することを前提とし、子どもとの話しあいのもと、家庭での実現可能なルールづくりを進めることが重要である。定期的にルールを見直すなど、柔軟な対応が必要である一方で、子どものネット利用の実態に関心を持ち、子どもと積極的にコミュニケーションを図るなど、兵庫県としても保護者の意識向上につながる施策を展開していかなければならない。

④プログラムの更なる充実と産官学民言の連携した取組の推進

今後は、産官学民言の連携のもと、参加者がキャンプ終了後も継続して適正なネット利用に取り組んでいけるよう、関係機関との適切な連携の構築、医療機関と連携した家族向けプログラムの充実など、体験型プログラムを更に充実させるとともに、兵庫モデルが他地域でも実施可能な教育目的のキャンプであることをマスコミ等とも連携して広く発信し、ネット依存に対する取り組みをより一層推進していく必要がある。

兵庫県立美術館

特別展 富野由悠季の世界

日本にとどまらず世界のアニメファンから絶大な人気を集めるアニメーション監督・富野由悠季の世界初の回顧展を開催します。富野の代表作である「機動戦士ガンダム」は今年で誕生から40年という節目を迎えますが、その人気は衰えを知らず、いまだに後続シリーズが発表されるなど、日本を代表する映像作品となりました。

展覧会では、富野の幼少期から大学生までに残した数々の創作の軌跡に始まり、アニメ演出としてデビューを果たした「鉄腕アトム」などの初期作品から、富野の名を不動のものとした「ガンダム」や「伝説巨神イデオン」といった70年代後半から80年代の作品群、そして現在も劇場版の制作が進んでいる最新作『ガンダム Gのレコンギスタ』に至る富野が手掛けたアニメ作品を余す所なく取り上げ、富野直筆の絵コンテやアニメーターによる原画やイラスト原画等の多彩な資料と、名場面を抜粋した映像によって、富野の仕事の全容に迫ります。

- 会期＝10月12日(土)～12月22日(日)
- 観覧料＝一般1,400円、大学生1,000円、70歳以上700円、高校生以下無料



©手塚プロダクション・東北新社©東北新社 ©サンライズ©創通・サンライズ©サンライズ・バンダイビジュアル・バンダイチャンネル ©SUNRISE・BV・WOWOW©オフィス・アイ



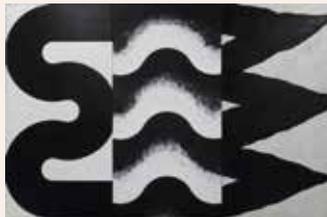
『機動戦士ガンダム』©創通・サンライズ

コレクション展Ⅱ 小企画「美術の中のかたち 一手で見る造形 八田豊展 流れに触れる」

兵庫県立美術館は1989(平成元)年度より「美術の中のかたち一手で見る造形」展を開催してきました。30回目となる今回は、八田豊(はった・ゆたか1930年福井県生)氏を出演作家に迎え、氏が1990年代より制作を続けてきた「流れ」シリーズを展示します。視力を失った作家が指先の感覚を頼りに作った作品に触れることで、その制作の軌跡を追体験するとともに、素材の性質がそのまま生きた作品を手で鑑賞する楽しさをご体験ください。



八田豊「流れ97-08」1997年 絹、布



菅井汲「空の怒り」1986年 油彩、アクリル、布

特集1

「けんび八景

一新収蔵作品紹介」

兵庫県立美術館のこれまでに収蔵された作品数は10,000点以上にのぼり、これらの収蔵品を、年3回開催されるコレクション展で、様々なテーマのもとに展示しています。2019年度の第Ⅱ期のコレクション展では「けんび八景」と題し、ジャンルや時代の異なる作品群をそれぞれ次の8つの「景色」に見立て、2018年度に新たに収蔵された作品をそれらの「景色」の中で紹介します。

特集2「没後80年 村上華岳」

村上華岳(1888-1939)は大阪に生まれ、京都市立絵画専門学校で学び、後半生は神戸の花隈で制作を行った日本画家です。仏や六甲の山々を描いた風景画などを主に描き、墨線を主体とした繊細な線描による精神性の高い作品を発表、その独特な表現は今なお観る者を惹きつけます。兵庫県立美術館は前身の近代美術館時代より、華岳を兵庫県ゆかりの重要作家と位置づけており、没後80年を迎える本年、当館の華岳コレクションを前期後期に分けて展示し、その絵画の魅力に迫ります。

- 会期＝7月6日(土)～11月10日(日)
- 観覧料＝一般500円、大学生400円、70歳以上250円、高校生以下無料

◎休館日＝月曜(ただし10月14日と11月4日は開館、翌火曜日休館)
◎開館時間＝10時～18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)
※入場は閉館の30分前まで
TEL 078-262-0901(代) <https://www.artm.pref.hyogo.jp/>

JICA関西

◆食べることから始める国際協力!

JICA関西食堂の月替わりエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。毎月の月替わりエスニック料理もご好評いただいております!ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。



写真は9月のベトナム料理

JICA関西食堂

▶ <https://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>

■営業時間＝(昼)11時30分から14時まで

(夜)17時30分から21時まで

※各終了30分前ラストオーダー

■定休日＝年中無休(年末年始を除く)

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西センター)総務課

TEL 078-261-0346 FAX 078-261-0342

Eメール jicaksic-event@jica.go.jp

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!

▶ <http://www.jica.go.jp/kansai/>

月替わり
エスニック料理の
詳細と写真は
こちら→



日本赤十字社 兵庫県支部

赤十字HATふれあいフェスタ

HAT神戸発信の楽しい大型防災訓練「ALL HAT 2019」が、人と防災未来センター屋外広場、HAT神戸内赤十字施設、なぎさ公園で開催されます。

赤十字施設では「赤十字HATふれあいフェスタ」を展開します。おいしい非常食カフェ、緊急車両等の乗車体験、救護服やナース服を着てちびっこ記念撮影、お菓子を使った薬局体験、缶バッチの作成、トランシーバーを使った無線ごっこ、心肺蘇生等のミニ講習、健康・介護福祉よろず相談など、参加・体験型コーナーが盛りだくさん!家族で楽しみながら防災と健康を考えるひと時に!皆様のご来場をお待ちしています。

■開催日時＝10月26日(土)

10:00～14:00

■赤十字コーナー＝兵庫県支部・

血液センター合同庁舎1階

神戸赤十字病院1階ロビー 他

■参加料＝無料



いのちと健康を守る赤十字活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。

■郵便局・ゆうちょ銀行からご協力いただけます

口座記号番号 01110-0-1136

口座加入者名 日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取り扱いの場合、振込手数料は無料です

◎問い合わせ

TEL 078-241-9889(総務部)

赤十字 兵庫 検索



夏休み防災未来学校2019レポート

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターでは、子どもから大人まで楽しみながら防災・減災について学ぶことができる「夏休み防災未来学校」を7月20日～9月1日に開催しました。いざというときの防災の知識を身につけるだけでなく、夏休みの宿題にも役立つワークショッププログラムを実施し、ご家族連れを中心に多くの方々に参加いただきました。

1 ロープワークでミサンガをつくろう!

[7/24・26, 8/12]

毎年恒例のロープワークプログラムを今年も開催。非常時に役立つ本結びや二重8の字結びなどのロープの結び方を覚えながら、カラフルな紐とビーズを使ってミサンガの手作り体験を行いました。小さなお子さんには難しい結び方もあったようですが、親御さんやきょうだいと共同でかわい



2 おはなしひろば

[7/21]

毎年、春・夏・冬に開催している、絵本の読み聞かせと紙芝居を行うおはなしひろばを開催しました。幼児から小学校低学年のお子様を中心に、たくさんの方に参加していただき、最後まで熱心に聞いていただきました。



3 地震の周期を学ぶ ゆらゆら3兄弟をつくろう!

[7/23・28, 8/14]

紙パックやペットボトルのキャップなど身近な素材を使って、地震の周期を学べる装置を手作りしました。長周期地震動や高層ビルの低層階と高層階の揺れの違いなどについて理解していただける機会を提供しました。



4 その時どうする? 簡易トイレをつくってみよう!

[7/25, 8/2・16]

災害時にトイレが使えなくなったときにどうするかを学習しました。家のトイレを水を流さずに使用する



5 じょうぶなストロー建物をつくろう!

[7/27, 8/30]

ストローと紙を使って家の模型を工作し、ペットボトルをのせてどのくらいの重さに耐えられるのかを試してもらいました。自由な発想で作られた家は個性的で、参加者は楽しんで工作をしていました。



6 サバイバル! 手作りラジオに挑戦しよう!

[7/30・31]

例年大人気のプログラム。ダンボールやクリップなど身の回りのものを使って、電池を使わないシンプルなラジオを製作しました。受信力が弱いため、参加者全員で完成したラジオを手になぎさ公園に移動し、ラジオから音声が聞こえてくると、皆、声をあげて喜ぶ姿が印象的でした。



7 「ゆれるん」地震体験車がやってくる!

[8/2]

神戸市消防局の協力を得て、今年も地震体験車「ゆれるん」による地震体験を実施しました。ご家族連れをはじめ、多くの方々に参加いただきました。実際に大地震の揺れを体験することで、いざというときの備えを考える機会を提供しました。



8 ペットボトル地震計をつくろう!

[8/3・4]

例年好評のプログラムを京都大学阿武山観測所の協力により実施しました。地震計の原理を学んだあと、ペットボトルや乾電池などを使って、本物と同じ仕掛けのペットボトル地震計を製作しました。



9 なんでもつかめる? ロボットハンドをつくってみよう!

[8/6・7]

災害時に活躍するロボットを紹介した上で、物がつかめるロボットハンドを製作しました。学生には少し難しい工程もありましたが、保護者やスタッフの力を借りて、皆それぞれ自分の作品を仕上げました。



10 3D!?六甲山の立体地図をつくろう!

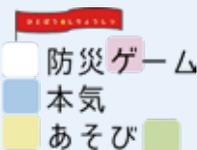
[8/24・25]

紙に描かれた等高線をプラスチック容器に書き写して重ね合わせ、六甲山の立体地図を作りました。同日、西館ロビーで開催していた「六甲山の災害展」もあわせて見学し、急傾斜の河川によって水害が起きやすい六甲山の特徴について詳しく学ぶ機会となりました。



① 防災ゲーム本気あそび

資料室では、8月の毎週木・金曜日に、震災資料専門員がファシリテーターとなって子どもたちに紙芝居を用いたゲームを通じて防災に関する知識を伝えました。



② 特別案内企画

「謎解き!ひとぼうツアー」

[8/3]

震災資料専門員が、人と防災未来センターのメモリアルセンターとしての役割について説明した後、収蔵庫を案内し、保存している震災資料について、収集・保存の経緯や、寄贈品のエピソードなどをクイズ形式で紹介しました。



令和元年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」

学校や地域において、防災学習に主体的に取り組む児童、生徒等の先進的な活動を顕彰する令和元年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」を、兵庫県、毎日新聞社との共催で実施します。今年度は、多様な年齢層で構成される特別支援学校や小・中・高・大学生が横断的に活動するNPO・地域団体等がご応募いただける「特別支援学校・団体」部門を新設しました。そのほか、募集の概要は以下の通りです。応募いただいた中から優秀な活動に様々な賞を贈り、令和2年1月12日に表彰式・発表会を兵庫県公館で開催する予定です。

【対象部門】

①小学生②中学生③高校生④大学生⑤特別支援学校・団体

【対象活動】

自然災害から命と暮らしを守るための防災教育や防災活動の取り組み。応募は学校、クラス、サークル活動、ボランティア活動、地域などの単位で。※他薦歓迎

【対象期間】

平成30年10月1日～令和2年3月31日(活動予定も含む)

【応募締切】

令和元年9月30日(消印有効)※本号発行の時期により応募が難しい場合があると思いますが、ご了承ください。

【応募方法】

下記のURLの申込フォームからご応募いただくか、応募用紙をダウンロードの上、郵送にてご応募ください。
<http://npo-sakura.net/bousai-koushien/>
 なお、応募用紙は、兵庫県復興支援課(TEL 078-362-9984)、人と防災未来センター事業課(TEL 078-262-5068)でも配布しています。

【応募先】

〒662-0041
 西宮市末広町4-7 夙川レッチオ レジデンツァ402
 ぼうさい甲子園事務局(特非)さくらネット
 TEL 0798-23-3215
 Eメール
bousai_koushien@yahoo.co.jp

▼ 昨年度表彰式の様子

(30年度グランプリ
 高知県・四万十町立興津中学校)

30年度 受賞者



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
 ※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
 ※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	大学生	高校生/小・中学生
600円(450円)	450円(350円)	無料

【障がい者】

大人	大学生	高校生/小・中学生
150円(100円)	100円(50円)	無料

【70歳以上の高齢者】 300円(200円)

※()は20人以上の団体料金

※毎月17日(休館日の場合は翌18日)は入館無料

休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
 ※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休
 ※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

鉄道 ・阪神電鉄「岩屋」駅、
 「春日野道」駅から徒歩約10分
 ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
 ・阪急電鉄「王子公園」駅
 西口から徒歩約20分

バス ・三宮駅から約15分

車 ・阪神高速道路神戸線
 「生田川」ランプから約8分
 ・阪神高速道路神戸線
 「摩耶」ランプから約4分
 ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



令和元年度春期 災害対策専門研修マネジメントコースの実施結果

当センターでは、地方自治体の防災担当職員を対象に「災害対策専門研修」マネジメントコースを平成14年度から実施しています。この研修コースでは、災害対策の中核を担う人材の育成を目的とし、阪神・淡路大震災の教訓のほか最新の研究成果も取り入れ、能力に応じた体系的・実践的なカリキュラムを提供しています。平成30年度末で延べ3,263人の方々が受講し、高い評価を受けています。今年度春期においては、「ベーシック」、「エキスパートA」、「エキスパートB」のほか、昨年度までは秋期に実施していた「アドバンスト／防災監・危機管理監コース」を実施しました。

「ベーシック」は、防災担当者として応急期から復興期まで対応していくために必要となる知識のうち、初めて防災業務に従事する者が押さえておくべき必須の知識を集中的に講義し、経験年数の浅い防災・危機管理担当部局の職員が早期に災害対応できるようになることを目指しています。災害関連法や地域防災計画の法的な位置づけなど基礎的な事項や、行政における災害対応業務の実際など実践的な事項についての講義を実施しました。

「エキスパート」では、災害対応の具体的事例や演習などを通して、大規模災害発生時に各種対応が同時並行的に展開する状況を横断的・総合的にとらえ、これに対処する能力を向上させることを目的とし、AコースとBコースに分け

て、初動期から応急期さらには復旧・復興期に至る災害対応、民間企業や自衛隊との連携、自治体間の広域的な連携等について講義を実施しました。

「アドバンスト／防災監・危機管理監」は、防災部局以外の部局から転入してきた防災監・危機管理監に早期に防災の知識を身につけていただくため、今年度より秋から春に開催時期を早めて実施しました。このコースでは、地方自治体のトップを補佐する者としての能力を向上させることを目的に、大規模災害発生時に政策的な判断を迫られる事項等について演習・講義を行いました。

研修終了後のアンケートでは、「講義を聞いて理解するだけでなく、得た知識を他の受講生と共有し、自分の中で再確認することができた。」「俯瞰して災害対応の全体像を見る力がついた。」「討論形式や演習形式のワークショップで他の自治体職員から幅広い情報提供を受けることができた。」等の意見が寄せられました。さらに、受講者間の交流を通じて防災担当者間の全国的なネットワークが一層強まりました。

コース名	日程	参加人数	修了者
ベーシック	6月26日(水)～28日(金)	69人	69人
エキスパートA	6月11日(火)～14日(金)	28人	28人
エキスパートB	6月18日(火)～21日(金)	27人	27人
アドバンスト／防災監・危機管理監	7月11日(木)～12日(金)	29人	29人
合計(延べ)		153人	153人



Hem21 NEWS
vol.77

令和元年9月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

● 管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

● 研究戦略センター

▶ 研究調査部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

● 人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

▶ 学術交流部

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

● ころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・ご感想を機構までお寄せください